

こんな原村になれば  
いいのにな！



いっしょに活動できる  
仲間がほしいな！



レポート

わたしのアイデア  
だれかきいて  
くれないかな…！

地域の中で  
つながりたいな！

# 原村 スラズラ

わたしには  
こんなことができるよ！

困っている人を  
知っているけれど  
どうしたら  
いいのかな？

# カフェ

想像して創造しよう！

どうやって  
活動を始めれば  
いいのかな？

共生社会とボランティアを考える

アイデア提案型 連続ワークショップ

世代間交流  
してみたいな！



協働することで  
おもしろいアイデアが  
生まれる！



6回顔を合わせる  
ワークショップで  
関係性がつくれる！



# 共生社会とボランティアを考える アイデア提案型連続ワークショップ 原村そうぞうカフェについて

## 互いを尊重しながら 自由な発想で原村の未来像を提案しよう

そんな呼びかけ文のチラシを村内の人々にお届けしました。  
呼びかけに応え、年代・性別・地区・ボランティア経験の有無を問わず、“地域づくり”やボランティア活動に興味のある方が集まり、顔を合わせて楽しく意見交換してきました。

この冊子は原村そうぞうカフェ全6回の様子をまとめ、会場のワクワク感を伝えて、原村で暮らす皆さんが世代や分野を超えてつながり、一人でも多くの方が“自分たちの原村を自分たちで楽しく”していく、きっかけになればという思いで作りました。

令和5年3月 原村社会福祉協議会

参加者  
延べ151名  
実人数65名(子ども2名含)

令和4年7月～令和5年2月の間に全6回開催  
前半2回はオンライン開催※  
後半4回は対面開催  
※コロナ感染予防対策のため

### この事業の背景

令和3年4月に、社会福祉法が改正され、現行の高齢・障がい・子ども・生活困窮分野の縦割りの壁を低くし「属性・世代を問わない相談・地域づくりの実施体制」を目指し、原村でも「重層的支援体制整備(移行準備)事業」が始まりました。

一方、第4期原村地域福祉計画では新規事業として「ボランティアが活動しやすい仕組みづくり(ボラン

ティアポイント制度導入の検討)」が明記されており、前述の重層的支援体制整備事業における「地域づくり」にあたるものとして位置づけられます。

その推進にあたっては、地域住民による意見交換の場が重要であると考え、共生社会とボランティアを考えるアイデア提案型連続ワークショップ「原村そうぞうカフェ」を企画しました。

### 用語解説1

## 地域共生社会とは？

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。



出典：厚生労働省 地域共生社会のポータルサイト (<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>)

### 用語解説2

## ボランティアとは？

ラテン語のボランタスvoluntās(自由意志)が語源とされている。自発的に行う社会活動、地域活動であり、様々な分野で多くの人が活動している。地域の人々による福祉活動の中核を占めるもの。

### ボランティア4つの特徴



出典：佐野市市民活動センター ここねっと ([https://kokonet-sano.jp/about\\_volunteer/](https://kokonet-sano.jp/about_volunteer/))



# 原村そうぞうカフェ—全6回の流れ

案内人にグラフィックデザイナーの富岡史棋さんを迎えて、「顔を合わせるワークショップで関係性がつくれる」「協働することで面白いアイデアが生まれる」ことを期待して、インプットの多い（話を聞く）回とアウトプットの多い（話をする）回を設け、各回とも全ての参加者が一度は発言できるよう工夫しました。

ピックアップ!

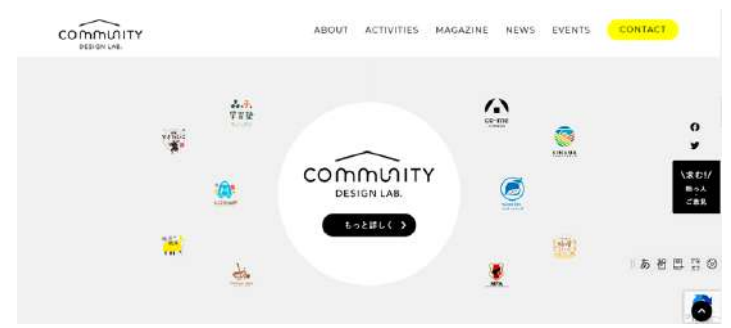
## 第2回 住民が楽しく活動する「宮崎県三股町」から学ぼう



↑第2回 YouTube動画視聴

### 三股町のここがすごい!

地域共生社会の実現に向けて、ホームページや発行物にデザイナーを起用し、伝える仕組みづくりをしています。地域共生社会の主役である住民のやらされ感なく、自ら楽しく活動、楽しくボランティアしており、更に関わる人が増えていっています。



出典:コミュニティデザインラボ(三股町社会福祉協議会) (https://commulab.jp/)



講師:松崎亮さん  
宮崎県・三股町社会福祉協議会  
平成31年4月より、「自分たちのまちを、自分たちで楽しく」をコンセプトに、社協内に「COMMUNITY DESIGN LAB.」を立ち上げ、2025年までに200の活動、2025人の地域活動者を生み出し、地域住民の活動で、地域課題の解決を目指すミッションを掲げ、日々活動中。

「地域の課題」に即した「活動」と「プレイヤー」を生み出すことで地域の困りごとを「解決」しています。「あそぶラボ」「出会いラボ」「食べるラボ」「支えるラボ」等様々なプロジェクトやプレイヤーが生まれています。

### 三股町コミュニティデザインラボのプロジェクト例



困りごとをプロジェクト化して名前をつけてロゴをつくるアイデア!

商業デザイナー等とチームを組み、こども宅食を参考に「みまたん宅食どうぞ便」を立ち上げた。沢山あるのでどうぞという支援を押し出さないネーミングに。ホームページで申込完結。面談後、毎月世帯の10食分の食料が届く仕組み。下記の世帯課題に気づきかけとなり、「森の子学習塾」の立ち上げにつながった。高校受験を控えた中学生。家庭の事情で塾にいけず進学をあきらめかけていた。そこで、専門職だけでなく地域の人と会議をした所「僕が教えますよ!」「楽しそう! 夜食を作るわよ」「プロジェクトにして毎週やろう」と学習のできる子ども食堂が立ち上がった。

「みまたん宅食どうぞ便」を進める内、企業・農家等から食品が集まるように。しかし、量や鮮度の関係から受入れを断ってしまうことも。こうした不定期で突発的に入ってくる食材をどうにかできないか...? その時、軽トラ所有の地域のプレイヤーが「俺、走ろうか?」と言って始まった「フードロスランナー」。さらに、「みまたん宅食どうぞ便」に宅配する味噌をみんなでつくる月1回の取組が始まった。多世代でみそをつかった後は、あつあつのごはんとお味噌汁でのんびりほっこりタイムで交流が生まれている。

#### Q1. どうして人が集まるの?

2人でもいい、想いがある人が来てほしい! そこにデザインのコストをかけている。

#### Q3. 参加している人が自然体で楽しそうにやっているのが不思議!

住民主体なので、活動は生まれるし、なくなる。認知症増えるから、といった不安からでなく、「楽しそうだから」で本当のプレイヤーになる。

#### Q2. プロセス教えて!

課題の共有だけで閉じる会議がいっぱい... 住民さんは想いを持ってきてるので、事前に「〇〇さんこんな力あるから、少なくともこんなできないですか?」のハンドリングを頑張っている。機能すればロゴをつけている。

#### Q4. そんな次々うまくいくもの? 秘訣を教えてください

100打席の10打席のところをお話している。失敗も沢山ある。

社協ボランティアコーディネーターより! ラボが、地域住民が地域活動する上での協働の出会いの場となっています。原村なら「おいでなして原宿」がそうした場になっていったらいいですね。

**第1回 オリエンテーション**  
住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生きていくために

2022年 **7月27日(水)** 15:30-17:00  
中央公民館 講堂 参加者:22名 ※ZOOM開催

**第4回 共生社会づくりのアイデア出し&チームづくり**  
やりたい! 話したい! さくだけもOK

**11月23日(水・祝)** 15:30-17:00  
中央公民館 講堂 参加者:17名

**第2回 住民が楽しく活動する「宮崎県三股町」から学ぼう**  
三股町社協の松崎亮さんのお話

**8月17日(水)** 15:30-17:00  
中央公民館 講堂 参加者:22名 ※ZOOM開催

**第5回 チームでアイデアを具体的にしていこう**  
こんな原村になったらいいな!

**12月17日(土)** 15:30-17:00  
中央公民館 講堂 参加者:22名

**第3回 原村のお宝探しと課題探し**  
何気ない地域のつながりが安心を生み出す

**10月19日(水)** 15:30-17:00  
中央公民館 講堂 参加者:23名

**第6回 アイデアプレゼンテーション**  
あなたが、チームが原村の未来をつくる!

2023年 **2月22日(水)** 15:00-17:00  
地域福祉センター 多目的ホール 参加者:45名 初参加:17名

宮崎県三股町は平成31年に厚生労働省「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業(現「重層的支援体制整備事業」のモデル事業)」を受託した先進地域です。

原村そうぞうカフェ 全6回の流れ

地域共生社会・ボランティアとは?

原村そうぞうカフェ 全6回の流れ

ピックアップ! 第2回 宮崎県三股町から学ぼう

第3回 原村のお宝探しと課題探し

第6回 アイデアプレゼンテーション

原村そうぞうカフェに寄せられた声

ボランティアコーディネーターより

原村そうぞうカフェ 案内人より

原村そうぞうカフェ 全6回の流れ

地域共生社会・ボランティアとは?

原村そうぞうカフェ 全6回の流れ

ピックアップ! 第2回 宮崎県三股町から学ぼう

第3回 原村のお宝探しと課題探し

第6回 アイデアプレゼンテーション

原村そうぞうカフェに寄せられた声

ボランティアコーディネーターより

原村そうぞうカフェ 案内人より



# 原村のお宝探しと課題探し

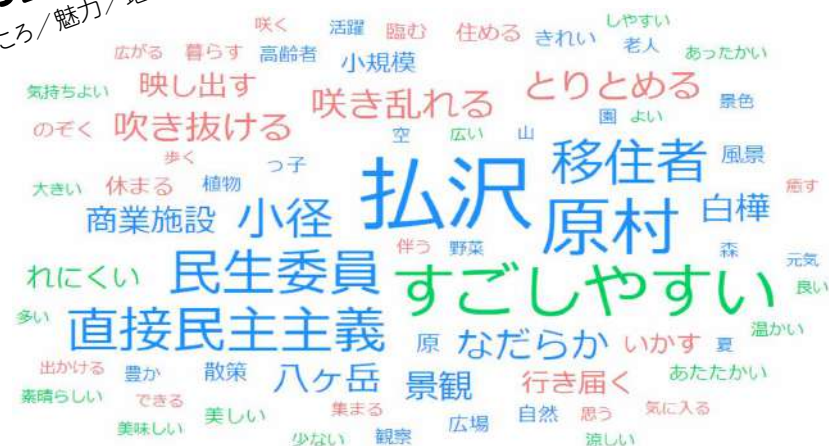
## 難しそうな地域課題も“お宝”という地域資源とつきあわせると… 解決の糸口が見えてくると思いませんか？

参加者23名の内、提出のあった11名の方の文章（お宝：1690文字）（課題：1382文字）をテキストマイニングという手法で分析しました。特徴的な単語が大きく表示されます。

お宝からは、美しい原村の自然の中での暮らしに魅力を感じ、特に夏すごしやすい様子が伺えます。課題からは、移住者と地元の人との交流を促進したい声が強くなっていました。参加者はほぼ移住者の方で、2017年に同様の分析をした際より居住地や年齢に偏りがあります。しかし当時同様、高齢化や移動手手段の確保、雪かき、子どもの遊び場の確保が引き続き課題に上がりました。

ツール：(株) ユーザーローカル [テキストマイニングツール]

### お宝探し (好きなところ/魅力/地域資源)



#### お宝によく出る単語

- 自然 • 美しい
- 原村 • 森
- 良い • 暮らす

#### お宝ピックアップ

〓 弘沢に診療所、スーパー、役場、福祉センター等が集まっていて便利

### 課題探し (困りごと/暮らしにくさ)



#### 課題によく出る単語

- 交流 • 困る
- 地元

#### 課題ピックアップ

- 原山地区の高齢化
- 原山、別荘の方の冬の暮らし (特に買い物など)

### 両方によく出る単語

- 移住者

#### 移住者 (お宝) ピックアップ

- 地元の人には当たり前が移住者にはお宝
- 移住者の特技、さまざまなキャリアをいかして活躍
- 移住者と村の方達とのあたたかな交流

#### 移住者 (課題) ピックアップ

- 移住者と地元の方と交流が難しい、少ない

もっと詳しく→



2017年と比べる→



## お宝を活かし地域課題を解決!?

原村の未来「こうなればいいな」を個人で自由に書いた後、グループで共有しました。

### 生活・環境

- 高齢化支援ボランティアがあればいいな (運転/草刈りや雪かき作業)
- 生ゴミステーションもつとあればいいな
- カン/ビンなどの収集日が増えればいいな
- 薪ボイラーの普及が進めばいいな
- 自転車 (アシスト) で使いやすい道路
- 近所との交流を深めたい
- トイレ改修して古民家活用できないか
- 50代~60代の一人暮らし男性向け婚活

### 観光・産業

- 体験型の観光資源、フットパスコース (森歩き/集落歩き)
- ウィンターシーズンの魅力を上げたい (雪景色などの資源を売りに)
- 農業等減らしてほしい
- 役割と出番づくり (できれば報酬あり) → お母さんのクラフト/阿久遺跡ガイド/
- コーヒーチケット配布 → 飲食店活性化/介護者リフレッシュ

### 学習・子ども

- パソコンやスマホの使い方を相談できる場所があればうれしい
- 自然を生かした子どもの遊び場がほしい
- 学校以外に安心していられる場所づくり
- 先生や親以外の信頼できる大人の存在が大事

### 未来の方向性は?

- 若い世代が住みたくなる村になればいいな
- 「美しい村」を掲げている以上、他の市町村から見学に来るような魅力あるポイントをつくりたい
- 「美しい村」のように競わなくてもよいのではないかな
- わたしの夢は電柱、電線のない景観
- どんな村を目指しているのか?
- 何に照らし合わせて考えるのか? → 例: 農業最優先/SDGs/脱プラスチック など

## 第3回のまとめ

「地域のお宝」、「地域の課題」、「こんな地域になったらいいな」といった質問に対し、回答は多岐にわたりました。「地域づくり」は行政だけでも民間団体だけでも住民だけでも成り立ちません。皆で既にある資源 (お宝) を整理し、課題を共有する事からはじめること。関係する人達が集まって、連携しながら互いの役割に落とし込んでいくこと。こうした過程が重要かつ求められていることを改めて実感しました。これらの「こうなればいいな」は今後は言わばなしです。ですが、今後「私もそう思う!」という人とつながっていききたいですね。

〓 社協ボランティアコーディネーターより

## 第4回・第5回で出たアイデア

第6回発表には至らなかったけれど、こんなアイデアもありました!

- 冬期ウォーキング広場
- 遊休農地を環境再生型農業で有効活用
- オトナも子どもも困らないうちから使おう! 公共交通
- 自然を守りながら心地よい生活を未来につなげたい
- フードバンクのアウトリーチ機能UPにむけて~ 宅食便化 OR フードランナー導入
- 赤い羽根 共同募金委員会を設置して助成金のしくみの変更と助成先審査機能を持たせたい!
- お茶のみバンザイ! 「おうちサロンのススメ」冊子を作りたい!
- 高齢者の生活支援応援隊 (仮)



# 第6回 アイデアプレゼンテーション

ここから20ページまで、原村そうぞうカフェの集大成である「アイデアプレゼンテーション」の発表資料を収録しています。気になる発表をみつけてみてください。

## 1 アイデアあたり5分程度の発表会

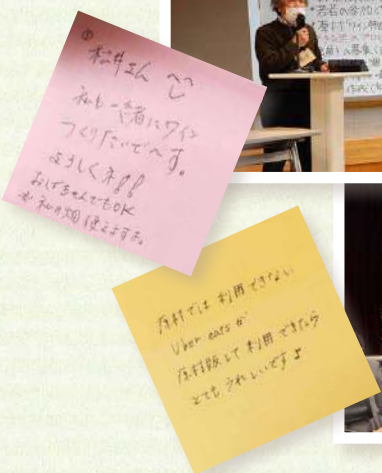


エールコメントを  
発表者へプレゼント

エールコメント：付箋に、  
発表者一人一人の  
アイデアに対し、  
賛同・応援メッセージを  
書いたもの



発表者と  
発表に興味を持った参加者が集まり  
質問や意見交換も



- No タイトル
- 1 みんなで楽しくワインを造ろう～趣味の会アドバイザー～
- 2 八ヶ岳自然文化園と森の小径の散策会～原村自然観察会へようこそ～
- 3 中央公民館を村民交流のハブ地にする提案「はらこ屋」  
1人ひとりの個性を生かしあうコミュニティ作り～みんなの「困りごと」は、みんなの「ついで」で解決!
- 4 原村で原体験を!自然と人が育てる未来のたねっこ(八ヶ岳原村自然遊学校)
- 5 踏み合うマッサージ「楽健法」を学んで元気に!『ふみてあて』グループを作る
- 6 ボランティアポイントを考える～介護予防ポイント制度から始めて全世代型制度へ～
- 7 八ヶ岳中央農業実践大学の再生計画  
企業版ふるさと納税制度を活用して、循環型農法など生きる力を学ぶ体験型農業実践教育にする(環境総合学部を新設する)
- 8 原村ハート・リサイクル会～環境・芸術・交流・健康～
- 9 原村版Uber eats "HARAいっぱい"
- 10 原村ボランティアネットHP(ネーミング募集中)
- 11 【高齢者の移動課題の緩和・多様な手段確保】原山でのプラス1運動の実践 & カーシェアリング導入検討
- 12 障害があっても歳を取っても暮らしつづけられる村に



←プレゼンテーションYouTube動画視聴

このプレゼンテーションの内容はあくまで提案です  
※提言やここで検討・批判するものではありません

## 1 みんなで楽しくワインを造ろう～趣味の会アドバイザー～ 松井茂

### 5年間のぶどう栽培のノウハウを生かして

「ハラショウワイン部会」は原村へ移住した数世帯が会員となり、草刈・摘果・収穫などの作業を協力して進めてきた。その経験から、趣味の会で行うワインづくりには新旧住民の交流の場となる可能性を感じ、立ち上げを希望する人がいたらノウハウを共有できる。棚型での栽培は村内で珍しいので移住者だけでなく農業従事者とも意見交換したい。



### 原村とリンクできそうなこと

- 栽培土地の紹介
- 助成・補助

### アンケートより

- 新・旧住民交流を目指すところが良い
- 多くの方とコミュニケーションをとり、おいしいワインが飲みたい

## みんなで楽しくワインを造ろう

ハラショウワイン部会 松井茂

- <要約>
- 休耕地の利用と寒冷地での農業への挑戦。
  - 新・旧住民が「ワイン造り」で共同参加できる。
  - 若者の参加で、家族ぐるみで楽しむ(バーベキュー等)。
  - 原村「ワイン特区認定」に相乗した取組になる。

- <ワインが出来るまでのプロセス>
- ①仲間(会員)の募集(15~20名・家族)
  - ②会の主旨・規約・運営等を話し合う(詳細は後決)
  - ③ワインぶどうの種類・栽培方法を決定(事前に勉強会!)
  - ④今後のプラン作成(年間計画・5年計画)
  - ⑤栽培する土地を探す(借地)
  - ⑥「ワインぶどう畑」を設計する(予算案出)
  - ⑦作業分担を決定(基本は全員参加)
  - ⑧苗の購入(年は半年以上前)、植付作業(穴掘・施肥)
  - ⑨(2年目)ぶどう棚(又は柵)の材料購入、作業手順を決定
  - ⑩(4年目)少量醸造可能な「ワイナリー」を決定
  - ⑪(5年目)収穫・ワイナリーへ持込、3か月後に引取・分配

- <年間作業内容>
- (1年目)苗の水遣(1/2月頃)/(2~5年目)養生撤去・棚造・施肥  
→草刈(4~5月)→摘果(5月以降)→虫取(6~10月連日)→  
摘葉(5月以降)→糖度測定(9・10月)→収穫(10月)→  
ワイナリー持込→ぶどう棚の冬季養生→ワイン引取・分配(11月)  
→年間の総括(総会開催)

- <レポートの要望>
- 栽培土地の斡旋の依頼(上記⑤)
  - 苗の購入時の資金援助(上記⑧)
  - 棚(又は柵・垣根)設置の資金援助(上記⑨)
  - 活動内容の紹介



### 社協ボランティアコーディネーターより

農福連携は国も推進している分野。「交流の畑」は全国に見られるものの、「ワイン」に着目した所が今の原村らしいですね。学びあう工程があり、仲が深まっていく様子が想像できます。



原村そうぞうカフェ  
地域共生社会・  
ボランティアとは?  
原村そうぞうカフェ  
全6回の流れ  
原村そうぞうカフェ【第2回】  
宮崎県三股町から学ぼう  
【第3回】原村の  
お玉探しと課題探し  
アイデアプレゼンテーション【第6回】  
原村そうぞうカフェ  
寄せられた声  
ボランティア  
原村そうぞうカフェ  
案内人より



### 2 ハケ岳自然文化園と森の小径の散策会 ～原村自然観察会へようこそ～

渡邊 勲

#### 「森林インストラクター」の知識を生かして

ハケ岳自然文化園・「ハケ岳森の小径」を散策する原村自然観察会を立ち上げた。

以前活用していたフィールドでも好評だったNPO法人リトカル運用の自然観察用ホームページ「はなもく散歩」を原村にも導入し、木の銘板にあるQRコードを読み取ることで詳しい情報が閲覧できるようにしていきたい。

**原村とリンクできそうなこと**

- ハケ岳自然文化園の自然環境調査
- 「はなもく散歩」システムの利用 (導入費用は長野県元気づくり支援金申請中)

**ハケ岳自然文化園と森の小径の散策会**  
～原村自然観察会へようこそ～

- 会の名称と代表者：原村自然観察会 渡邊 勲
- 会の紹介
  - \*対象者：原村在住、自然散策を愛する皆様 ワンちゃん歓迎
  - \*日時：毎月第2水曜日 10:00～12:00 (4月～12月)
  - \*集合場所：自然文化園ロビー
  - \*服装・持ち物：帽子・長袖・長ズボン・トレッキングシューズ・飲み物
  - \*年会費 無料 (参加したい時だけ)
  - \*参加費：300円/人 (県外参加の方は1,000円/人)
  - \*参加・不参加の連絡：前日までに 090-2468-8047 (渡邊 携帯)
- はなもく散歩システム※の活用～心身ともに若々しく過ごしましょう
  - \*スマホ活用することで、**脳の活性化**、**戸外を歩くことで、生涯現役**

※はなもく散歩とは？・NPO法人リトカル運用の自然観察用のホームページ  
木の銘板のQRコードにかざすと木だけでなく昆虫や野鳥などの楽しい関連情報も。母親の声の読み上げ機能あり

**ハケ岳自然文化園と「ハケ岳森の小径」**

主要施設

1. シナノ
2. オオハヤダイジュ
3. ハムニレ
4. シツカバ
5. ミズタケ
6. コナラ
7. オニグルミ
8. クリ
9. トチノミ
10. ズミ
11. コブシ
12. ヨシ
13. ヨシ
14. トネリコ
15. ナカマド
16. オオクサ
17. オシロイ
18. モミ
19. トイツツシ
20. タノハバ
21. イヌザクラ
22. サムシノキ
23. ヤマハコ
24. コハナツクサ
25. カウコガエダ

**「はなもく」散歩システム クイズで遊ぼう？**

**原村への要望**

1. はなもく散歩システム導入への物心両面でのご支援
2. 自然文化園の自然環境調査へのご理解とご協力
3. システム導入費用については、長野県の元気づくり支援金の適用をお願いしています。

3年間、村民の皆様にご協力いただき、その成果を基に維持管理費25万円/年～予算化できないか、ご検討下さい  
「ハケ岳森の小径」を盛り上げましょう！

**「はなもく」散歩システム 1 雄大な景観と不思議な光景**

**アンケートより**

- 子どもたちに自然体験してほしい
- 自分でも参加できそうな会
- 参加したい。楽しそう。住民の交流になる

「諏訪地域タウンミーティング」に仲間あつめのため参加しました

### 3 中央公民館を村民交流のハブ地にする提案「はらこ屋」

1人ひとりの個性を生かしあうコミュニティ作り

みんなの「困りごと」は、みんなの「ついで」で解決！ 膳師弘育

#### 地域の支え合いネットワークづくり・住民参画

「原村中央公民館っていろんな人が寄るのにおいしい場所だね」という気づきから、子どもの送迎や買い物「ついで」に立ち寄れるコミュニティ・ワーキングスペース「はらこ屋」プロジェクトを構想。

様々な機能を持たせたトライアルをやってみたい。転入後に移住者が必要とされる実感を持てる場にもなったらよい。

**原村とリンクできそうなこと**

- 公民館へ登録する
- 公民館登録団体と連携
- はらっ子広場と連携
- ハラカツ!と連携
- 地域おこし協力隊と連携

**中央公民館を村民交流のハブ地にする提案**

みんなの「困りごと」は、みんなの「ついで」で解決!

ぜんし ひろす

**HARAMURA 第5次 原村総合計画**

**原村目指す姿**

- 住民参画と人との助け合いによる自立した村づくり
- 原村ブランドの創出、独自文化の醸成
- 子どもからお年よりまでが安心して暮らせる居場所・環境作り

**原村の未来**

- おらぼうの村づくり、コミュニティ活動の推進と支援
- 地域の支え合いネットワークづくりの推進
- ボランティアグループと協業し、生涯学習の機会を支援
- 中央公民館を住民ニーズに対応した利用しやすい施設にする
- 子どもの安全、安心が確立できるよう、高齢者・大人との交流機会の充実を図る
- 放課後子ども教室の充実と支援
- 住民との協働による子育て支援

**中央公民館を村民のハブ地にして 原村独自のコミュニティを作る**

住民主導で、生涯学習・コミュニティ・ワーキングスペースを作る

- 新しい、かつ原村独自の仕組み「はらこや」
- 既存施設「中央公民館」を活用。「はらこや」を住民の「ハブ地」にして、みんなの「ついで」でみんなの困りごとを解決する

「はらこや」のコンセプト

- つどい・まなぶ・はたらく
- 保育園・小中学校の送迎、買い物ついでに立ち寄れる
- 村民みんなが先生になる(生涯学習)
- みんながはたらく(就業支援)

原村中央公民館を利用

1階	2階
・放課後の遊び場	・ワーキングスペース
・お茶のみスペース	・8自習室
・弁当販売スペース	・カルチャースクール
・無人野菜直売所	・移住相談
・子育て相談	

※常時ついでに、ご近所さんへ弁当・野菜の配達

**近隣地域の成功事例**

**高土見町 森のオフィス**

- ・ワーキング&コミュニティスペース
- ・運営を民間へ委託

**長野市 コミンズ**

- ・民間主体のコミュニティスペース
- ・支援金・既存の施設を有効活用

**長野市 中央ワークステーション**

- ・「であつつながる 創造する」をキーワードに、市民活動創出
- ・市民と連携したまちづくり

**原村へのお願い**

「はらこ屋」プロジェクトを、トライアルでやらせてください!

1. 6月6日～8日の3日間公民館貸切
2. はらっ子広場、ハラカツ!、公民館登録団体、地域おこし協力隊の協力
3. プロジェクトで活動団体を作りますので、村の協力と支援をお願いします

**アンケートより**

- 具体的で既存の施設を使うのがいい
- 集まったついでにいろいろな事ができると良い

**社協ボランティアコーディネーターより**

以前より「ウォーキングしながら草木の名前の解説が聞けたらいいな」といった声がありました。この度、定期的な会の立ち上げに至り、原村の健康寿命が更に延びそうですね! 自然好きの皆さんの輪が広がります。

**社協ボランティアコーディネーターより**

中央公民館を丸ごとフル活用する案に驚きました。トライアルの数日は貸切とはいえ、定例活動団体には通常通り使ってもらい、当日参加の方を受け入れてほしい、とのこと。参加したい・実現してほしいとの声も出ているようです。賛同する方の活やくの場になればと思います。



# 4 原村で原体験を！ 自然と人が育てる未来のたねっこ (ハヶ岳原村自然遊学校) 岩崎公彦

## 自然の中のイベントで世代間交流を

発表者の主催団体「ハヶ岳原村自然遊学校」。そこでナビゲートを行い、地元生まれの方・移住者の方問わず「地域の大人＝ハラムーチョ」が「すべての地域の園児～高校生＝たねっこ」へふれあいと体験を提供。

この地域イベント企画の名称を「ハヶ岳原村8ケンウォーク」と名付けた。

**原村とリンクできそうなこと**

- 活動場所の紹介
- 活動応援サポーター（人材の紹介）
- 助成・補助
- 子育て世帯へのPR

# 5 踏み合うマッサージ「楽健法」を学んで元気に！ 『ふみてあて』グループを作る 早坂みさ子

## 自宅の教室でヨガ講師をしてきた経験から

ヨガをするのは体力・技術的に難しい人もいるので足で踏みマッサージ「楽健法」を広めていきたい。

「楽健法」は体だけでなく心をほぐす効果もあるので、熟年夫婦同士・登校拒否のお子様とその親でケアしあう等、様々な人達が踏みあえるようにして差し上げたい。

**原村とリンクできそうなこと**

- おいでなして原宿の活用（体験会 会場）
- ひめばら交流スペースの活用（コロナ後の会場候補地）

原村で原体験を！  
**自然と人が育てる未来のたねっこ**

**ハヶ岳原村 自然遊学校**

令和の時代に入りコロナ禍もあり、子どもたちは、自然や家庭や学校以外の人との接触が著しく低下している状況にあります。

今回は、ハヶ岳原村の自然豊かな環境の中で、自然が教えてくれることや、地域の大人と子どもたちのふれあいと体験を通じて、子どもたちに大切なパトンを渡していくための取り組みを考えました。

晴天の多いハヶ岳の気候のように明るく、地域のみんで見守れることができれば、未来のたねっこは、自ら生きる力を育み、環境や人にも優しい大人に成長し、この村や自分の地域にきっと素敵な花を咲かしてくれることでしょう。

**活動イメージ図**

地元生まれの方 **ハラムーチョ!** 移住者の方

わくわく発見! **ハヶ岳原村 hakken 8ケンウォーク** 全ての地域の園児～高校生

たねっこぶ

ナビゲート by **ハヶ岳原村 自然遊学校**

（ハヶ岳原村地域を中心とした地元住民の方・移住者の方（愛称：ハラムーチョ）と子どもたち（愛称：たねっこ）をつなぎ、子どもたちにとっての貴重な原体験提供の場となる地域イベント企画の名称。

◎大人のたくさんの経験・思いのパトンを今の子どもたちへ

◎優しく生きる力と環境保全意識の啓蒙をつなぐ、未来のパトンを受け取る子どもたち

◎大人への体験・思いのパトンを今の子どもたちへ

◎優しく生きる力と環境保全意識の啓蒙をつなぐ、未来のパトンを受け取る子どもたち

※ハラムーチョは、スペイン語で、「たくさんのいっばい」の意味

※みんなてんてん守り、地域を育て、未来の環境・社会にそれぞれの花を咲かす子どもたち

**アンケートより**

- 子どもたちに自然体験してほしい
- いろいろな世代交流の可能性がある

パートナーが互いにケアしあう/  
踏み合うマッサージ「楽健法」を学んで元気に！  
『ふみてあて』グループを作る

発表者・講師 早坂みさ子  
(楽健法奥伝取得、ヨガ講師)

メンバー：金子裕代 齋田壽久子 古石久美子

**ふみてあて**  
楽健法のほん

**楽健法とは？**

故有厳先生が考案したマッサージ法。使い過ぎの所や使われない所は固くなっているため足裏でほぐして血流やリンパの流れを良くする。

踏み人も足裏マッサージされて、温かくなる。

踏みながら「心をほぐす」「触れ合い」の効果も！

痛くないですか？

気持ちいいです...

**会の名前：原村「ふみてあて」楽健法**

場所は定員6名！

場所	早坂宅 (コロナ後はもみの木荘の向い「ひめばら」へ打診)
参加費	1回 500円 (積み立てて運営費&寄付に)
日時	基本第1、第3土曜日 午後13時30分から16時30分 ※1人1時間半をペア交代
持ち物	バスタオル、タオル、飲み物(きゆ)、ヨガマット
体験	日時：月曜 or 水曜日の1時から3時まで 場所：おいでなして原宿または早坂宅 定員：1人か2人 前日までに予約：55-2665 (留守電に入れて下さい折り返します)

こんな方へオススメです

- 冷え性の方 (男女問わず)
- 筋肉をほぐしたい
- 血流の流れをよくしたい
- 熟年夫婦
- 登校拒否のお子様とその親

1月21日 (土) ～スタート中

- ・実演&参加者の声
- ・月に2回やっていけば、半年後には踏めるようになりそう！
- ・社協や役場へ要望
- ・とくになし。やってみて続けていけたらいいな。

**「8ケンウォーク!!」の実施想定案 (了承済みの方)**

- 原村の無農薬のぶどう農園で収穫ぶどうジュースづくりの「8ケンウォーク!!」
- 原村にいる、生きもの探しゲームしながらの「8ケンウォーク!!」
- 原村の土地の約47%は森! 森の中で、森ってどんな役割があるの?を知る「8ケンウォーク!!」
- 伐採した木を活かし、樹木から創るクラフトワークの楽しさを体験する「8ケンウォーク!!」

★その他、原村の地元住民の方・移住者の方が、「ハラムーチョ」として参加してもらいたい。

★活動応援サポーター (どなたでも大歓迎!)

◎原宿さん→「8ケンウォーク!!」ご協力として ◎原宿さん→「8ケンウォーク!!」ご協力として ◎原宿さん→原村の自然環境に親しむ若いファミリー世代との交流を促すため、◎原宿さん→原村の自然環境に親しむ若いファミリー世代との交流を促すため、◎原宿さん→原村の自然環境に親しむ若いファミリー世代との交流を促すため、

**実施計画案概要**

- ◎対象 全ての地域の園児～高校生 および原村およびハヶ岳エリアの地域住民の方
- ◎実施場所 原村を中心としたハヶ岳エリア
- ◎実施予定時期 夏と秋の年2回～
- ◎実施者 ①ハヶ岳原村自然遊学校 (密着公認およびアクティブパートナー) ◎活動内容等詳細ホームページ! <https://yuggako.base8-haramura.com>
- ◎各地区のご協力者の方々
- ◎実施費用 スタッフ人件費、コラボレーションパートナーさまの謝礼、その他実施費など
- ◎行政・原村社協さまへの要望 ・活動費用のご協力 ・場所のご提供 (村内の野外の森、広場や公民館などの遊休施設、その他) ・人材の紹介 (後援区のご協力者「ハラムーチョ」) ・村を盛り上げた子育て世代に向けたPR、告知

社協ボランティアコーディネーターより/  
人とのふれあいがコロナ下で減っている昨今、体と心をほぐす会の立ち上げに踏み切っていたいただきました! 既に数人の参加者と踏みあっているそうです。「片足で自立できる人」が対象です。



社協ボランティアコーディネーターより/  
「自然の中であそぶ」イベントで子育て世帯の集客に実績のある「ハヶ岳原村自然遊学校」が「地域の大人を先生に!」と声をかけ、4つのイベントを企画してくださいました。子どもにも大人にも「わくわく発見」できる場になっていきそうですね。





6

### ボランティアポイントを考える

～介護予防ポイント制度から始めて全世代型制度へ～ 宮坂早苗

#### ボランティアポイント制度導入の検討

「原村地域福祉計画」だけでなく「原村高齢者福祉計画」では（高齢者の）「社会参加や就労への支援」の項目にボランティアポイントの記載がある。

このアイデアは「記載に至るきっかけとなったボランティア同士の話し合いの場」へ参加していた方達が中心となり、用語や原村の現状の整理、先行事例の分析からはじめ、最終的に自由な発想で、今行っている活動にあてはめた案「ハラチャレポイント(仮称)」を作成した。

**原村とリンクできそうなこと**

- （交換できるもの／先としての案）公共交通乗車券、縦の木荘やもみの湯、自然文化園などで使用できる券 高原朝市、八ヶ岳マルシェ、レストラン など村内事業者
- 財源を考える

### ボランティアポイントを考える

～ 介護予防ポイント制度から始めて全世代型制度へ ～

NO.5 MORI TEAM

安心なつながりが感じられる場所でお互いを尊重しながら  
原村の未来像を提案する  
地域共生社会「世代・分野」を超えて一緒にできることって何だろう？

### ボランティアポイントって？

**基本コンセプト**  
原村は元来、多様な世代・分野の住民が社会に貢献する行動であること。この点を「ボランティアポイント」に還元し、地域を活性化させる。

**ボランティアポイントの活用**  
原村の課題やニーズに応じたポイント付与、自身の関心・学びのためにボランティア行動をした際にポイント付与する。

**原村とリンクできそうなこと**  
原村の課題やニーズに応じたポイント付与、自身の関心・学びのためにボランティア行動をした際にポイント付与する。

### 原村の現状は？

こんな意見がありました！

- 若い人たちは、生活するので精一杯。ボランティアだけでなく、企業化することも必要。
- ボランティアに頼らない一ステキだと思う
- ボランティアポイント制度、考えていきたい
- 子どもの送り迎えに困っている
- ねこの手サービスに参加しているけど、ポイント制度あったらいいな
- 介護施設、感染症の影響で外部の出入りは難しい
- お手伝いさんではない
- 村には、ねこの手、ねこの足サービスがある。介護認定で、できないことをカバーしている
- 介護職員、ケアマネジャーの仕事との関係はどうなるのか？
- ねこの手は社協職員が、ボランティアポイント、誰がコーディネーターするのか。ボランティアではだめ、職員が行うべき。


困っていること 誰がつなげてくれる？

- 介護認定対象者は？
- 介護認定対象者は？
- 子ども課 「ファミリーサポート事業」
- 相談はどこ？
- 子ども課、保健福祉課、民生委員、家庭教育・児童相談員、社協、長野県よりサボ伊州道訪（下訪）など。
- ボランティアの常駐拠点は？
- 社協にボランティア協議会はあるが、常設の「ボランティアセンター」はない。誰でも情報を入手できる場所が充実していない。

介護ボランティアポイントから始めて、全世代型のポイント制度に・・・とりあえず今行っている活動にあてはめてやってみる・・・チャレンジ

### アンケートより

- 期待したい
- これからどうなるか興味あり
- ボランティアポイント制度賛成



### ～やってみよう～ハラチャレポイント(仮称)

- When** いつ？ 令和5年 8月～12月
- Where** どこで？ 原村全域で
- Who** だれが？ 社協が主体となって
- What** 何のために？ 地域の中で健康で気持ちよく暮らすために！
- Why** なぜ行うのか？ 安心して暮らせる地域社会になるために！！

**How どのように？**

- ポイント制度を活用して地域で支え合う意識（ボランティア）の醸成を行う
  - 今行っている活動にポイント付与
    - プチボラチャレンジにポイント付与（教育機関、福祉施設、住民団体が参加）
    - 職場活動（ごみ拾いやリサイクルバザーなど）にポイント付与
    - 何と交換する・・・子どもも大人も使える交換券にする（上限2000円）（公営施設）ねこの手サービスに使用できる券、公共交通乗車券、縦の木荘、もみの湯、自然文化園などで使用できる券（民営施設） 朝市、マルシェ、レストランなど村内事業者を募る
- 方法
  - 社協コーディネーターがコーディネート（ルールは必要）
  - スタンプカードの活用・・・紙、スタンプなどの準備だけではじめることができる
- アプリ活用の模索・・・分野を超えたインセンティブをアプリでつなぐ・・・
  - 子育て・・・子育てシェアアプリ・・・アプリ使用無料
  - 資源循環・・・地域通貨ポイント・・・Chiica（地域通貨）アプリ・・・自治体連携必要
  - 富士見町・・・KENPOS「みんなで健康プロジェクト」
  - アプリ開発・・・高知県日高村「健康アプリ」、グリーンライフポイント（環境省）

**How much 費用は？**

- 原村 原村地域づくり支援事業補助金上限30万円・今回はこの制度を活用
- 長野県 元気づくり支援金
- 国 ポイント事業補助金（厚労省・総務省・環境省）

財源は 村と社協で考える！

社協ボランティアコーディネーターより  
「アプリを活用するのはどうか？」  
「長野県の元気づくり支援金を〇〇団体で取るのはどうか？」との途中経過を経て、こちらが最終案として出てきた時は驚きました。

7

### 八ヶ岳中央農業実践大学の再生計画

企業版ふるさと納税制度を活用して、循環型農法など生きる力を学ぶ体験型農業実践教育にする 平川浩之

#### 村唯一の大学校を魅力的に残すために

令和2年秋、八ヶ岳中央農業実践大学校（以下、八農）の経営難打開策としてメガファーム誘致計画が持ち上がり、冬には説明会へ多くの住民が参加。景観、水質、空気等様々な観点から反対の声があがり計画は白紙に。そんな中「反対するだけでなく経営難で困っている八農のために何かしたい」という住民有志でサポーター制度が発足、八農とサポーターの会議の場がきっかけとなり本アイデアが生まれた。

**原村とリンクできそうなこと**

- 企業版ふるさと納税にむけた個別の事業計画の相談・協議（時期未定）

企業版ふるさと納税のハードルが高いことが判明したため保留中です。循環型農法と関連する生きる力を学べる学科を新設する本案は、大学校を再生するだけでなく、日本の学校教育の雛形となります。（発表者：平川浩之）

**①アイデアのタイトル**  
『八ヶ岳中央農業実践大学の再生計画』

内容：「企業版ふるさと納税制度」を活用して循環型農法など生きる力（食とエネルギーの自給自足+生活全般）を学べる体験型の農業実践教育を導入し、大学校の存続を図ると共に、未来のためになる魅力ある大学校に再生する。

**②氏名(団体名)**  
平川浩之 リングリンク（ホール&シェアハウス運営）  
八ヶ岳中央農業実践大学の体験学習指導員（2022年4月より）

**③経緯**  
大学校から「企業版ふるさと納税の寄付金を活用して大学校の存続を図りたい」との相談が、昨年10月のサポーター会議であった。「企業の寄付金を集めるためには、大学校の再生という目的ではなく、大学校が寄付金を活用して、魅力ある大学校に再生する具体的な計画、Q&Aが必要では？」と提案したところ、大学校から「具体的な計画、Q&Aを作ってください」と協力要請があり、昨年11月に再生計画を大学校に提案した。一部採用されているが、「循環型農法など生きる力を学べる体験型の農業実践教育の導入（仮称：環境総合学部）」については、大学校の方針ではなく、現状採用されていない。

**④大学校に提案している「大学校の再生策」**

- 農業実践教育の充実 自然循環型農法+多様な教育  
⇒ 生きる力（食とエネルギーの自給自足+生活全般）
- 体験学習の充実 内容充実と対象者の拡大
- 非常時対応 安心安全な拠点づくり

上記1、2の概要 環境に配慮した持続可能な循環型社会に対応した農業教育への転換

	現状	今後
農業実践教育	慣行農法 (学生数20名)	慣行農法 自然循環型農法+多様な教育 (学生数2025年100名) ⇒ 生きる力（食とエネルギーの自給自足+生活全般）
体験学習	小中学生(学年単位) ※200名程度	小中学生(学年単位) グループ(企業及びサークル等) 個人(地域住民、サポーター、メンタルヘルス知能)
家畜の飼育	放牧飼育は一部のみ	牛・豚・鶏の放牧飼育比率向上
野菜自消費	慣行農法の野菜	オーガニック野菜+慣行農法の野菜
カフェ(仮称)	不定期営業	大学校のオーガニック野菜を使った料理
将来展望(2025年以降)		①ターチャ、クラインガルテン ②ベトナム(動機付ペット保護事業) ③ヘルスケア(鍼灸治療、産後ケア) ④役員・小中学・通信制高等教育

**⑤【非常時対応】** 南海トラフ大震災などの災害時には、長期間、電力、ガソリンの供給が滞り、都心から、住民の避難、別荘住民が避難して行くことが想定されるが、大学校には非常用電源がないため、もみの湯の源泉供給が停止、大学校も機能が停止する。また、冬の間は、大学校は食料【野菜】の供給が全く出来ない。非常時の電源確保、野菜備蓄倉庫、環境配慮型電源（小水力発電等）などにより、安心安全な地域社会づくりのモデルケースを作る。

① 太陽光発電と蓄電池	④ 野菜備蓄倉庫	⑦ 非常時に強い環境配慮型住宅
② 太陽光温水、温泉の熱源利用	⑤ 水の浄化装置	⑧ 薪のチップ化装置、薪ボイラー装置
③ EV車、EV車高速充電設備	⑥ 小水力発電	⑨ ……

**⑥提案に対する大学校の反応**

- 農業実践教育の充実 「減化学肥料、減農薬、有機栽培等を経験豊かな大学校教員及び各員教員が実践指導」  
〔「自然循環型農法+多様な教育」の提案は不採用〕
- 体験学習の充実 内容充実と対象者の拡大（提案通り）
- 非常時対応 安心安全な拠点づくり（一部提案通り）

**⑦【企業版ふるさと納税とは？】**

企業版ふるさと納税は、企業が地方自治体（茅野市、原村等）の策定する地域創生推進事業に賛同して、納税する制度です。企業には約9割の税の軽減効果があります。但し、

- 企業にとっては、税の軽減効果があっても、会計処理上は寄付金であり、負担があること  
⇒ 企業が「地域のため、日本のために必要なので是非応援したい」と共感する魅力ある計画が必要
- 課税所得の約1/100しか、企業版ふるさと納税の対象にならないこと
- 茅野市・原村の事業に対して、企業から寄付金が入るため、大学校に寄付金が活用されるためには、個別の事業計画を茅野市・原村と協議して作り上げる（最終的に議会の承認も得る）必要があることなど、現実化するためには、相当な気力と根気が必要です。

**⑧【今後の進め方 ～企業版ふるさと納税で大学校を再生するために】**

- 茅野市・原村が掲げている企業版ふるさと納税の対象となり得る「地域創生推進事業」に沿った茅野市・原村の事業となることを前提として、大学校の再生資金に使用可能となる個別の事業計画を作り、大学校に提出する。（自然循環型農法+多様な教育については、大学校に抵抗がある為、体験学習の充実には取り組む？）
- 個別の事業計画について、大学校内部で協議して、修正する。
- 個別の事業計画について、大学校が茅野市・原村に相談して、事業内容を大筋で合意する。
- 企業に寄付金（企業版ふるさと納税）をお願いする。（この前に住民説明会を実施して協力を仰ぐ）
- 企業の了解が得られれば、再度、茅野市・原村に相談して、予算案を策定、議会を通していただく。

以上

アンケートより  
多くの村民が真剣に考えるべきテーマ  
実践大学は原村の目玉、応援したい

社協ボランティアコーディネーターより  
八農サポーターの皆様には夏のボランティア体験「サマーチャレンジ」でトウモロコシの収穫体験の受入をしていただきました。観光・景観面で八農さんが担う役割は大きく「八農が困っているなら何とかしたい」という自発的な気持ちはまさにボランティアに欠かせないものです。





## 8 原村ハート・リサイクル会 ～環境・芸術・交流・健康～

池上直紀

### 情報と人が集まる場づくり

発表者は地域SNS、特にLINEを活用した情報発信を実践してきた。それぞれのテーマでグループLINEを作成し運用すると共に、顔の見える関係を作る場としてパン屋「パパゲーノ」横のラウンジを活用し、地域の人々がリラックスできる場を提供していく。同ラウンジにて「白湯カフェ」を日・月10時～15時を3月から実施(カンパ制)。農作物やクラフトは現物置かず、紹介・つなぐ機能をQRコード等で持たせる。

### 原村とリンクできそうなこと

- 広報
- 空き家の情報提供
- 大規模イベント企画協力

### 原村ハート・リサイクル会 地域 SNS @ 芸術・交流・農食

原案 池上直紀

地域の人々がリラックスできる  
雰囲気のある場所・SNSを作ります  
～サード・プレイス～

クラフトアートの鑑賞や  
楽しく談話しながら  
新しい繋がりをサポートします

### 【@マルシェ・リサイクル会】

グループ LINE アルバム活用  
農作物のQRコード掲示・販売

### 【クラフト@ギャラリー】

QRコードで購入・交流できる

### 【@チラシ・フードバンク】

グループ LINE で募集・告知・集客



原村クラフト・アートギャラリー (仮設)  
パパゲーノ横 交流カフェ

▶ハート・リサイクル会  
会員の交流・運営・発信  
寄付での光熱費対応  
長寿促進の白湯推進

▶役所行政へのお願い  
広報・空き家の情報提供  
大規模イベント企画協力

白湯はインド医学で  
5000年の歴史  
全身の免疫を上げる  
基礎体温を上昇させる

「社協ボランティアコーディネーターより」  
「●●を引き取ってもらえないか」という問い合わせが年に数回あります。今まで繋ぎきれない事もありましたが、相談先が増えました!しかも常設。頼もしいです。やりながら柔軟に変化していくスタイルで、原村に新しい風が!

### アンケートより

- 白湯健康法はとて大切
- 明快!現実的、時代性アリ!!



質問ブースにて他チームの発表者さんと写真を撮りました

## 9 原村版Uber eats “HARAいっぱい”

石井多賀子

### 子育て世帯の“食”にまつわる急な困ったを解決

飲食店応援、新たな雇用創出に向け、Uber eats(アプリ)やwebサイトから料理を注文でき、配達パートナーが注文者の元まで届けるフードデリバリーサービス)を思い出した。ただ、このサービスは諏訪郡非対応。そこで村内の飲食店経営者に聞き取りをし、飲食店にも消費者(特に子育て世帯)にも優しいサービスを構想した。

### 原村とリンクできそうなこと

- テイクアウトのある飲食店
- 「子育てシェアアプリ」講習+サービスの案内+楽しいワークショップ
- 情報共有ツール

現状と課題

- 飲食店
  - ・安心安全な食の提供
  - ・可能な範囲で配達受付
  - ・配達員や人件費の工夫
- 社会福祉協議会
  - ・住民同士との交流促進
  - ・既存施設など地域資源の活用
- 消費者
  - ・食事の手配希望(特に体調不良や天候不順時など)
  - ・テイクアウトは時間にならないので配達希望

まず初めに「アプリ登録」  
子育てシェアアプリ、PayPay、LINE(グループLINE・店舗公式)

お弁当注文

1. テイクアウト希望者: 「店舗公式LINE」から
2. 配達希望者: ①「店舗公式LINE」から ②「子育てシェアアプリ」、「グループLINE」から依頼を作成 ③ 配達できそうな仲間が「どうぞ」ボタンで手助け

決済

- テイクアウト希望者: お店の規定、もしくは「PayPay」から
- 配達希望者: 「子育てシェアアプリ」の決済サービスから



矢島ペンションさんに  
取材の協力をいただきました

配達希望者・配達者の増やし方

講習・イベントの定期開催  
例) 毎月1回・月曜日 @ おいでなして原宿  
「子育てシェアアプリ」講習+サービスの案内+楽しいワークショップなど

店舗の増やし方  
「店舗公式LINE」、「PayPay」があればOK

検討事項  
情報共有ツール(利用可能な店舗情報など)

「社協ボランティアコーディネーターより」  
Start Small, Grow Bigの方針で連絡・決済ツール・対象を細かく検討いただきました。「あったら便利」との声多数。

「アンケートより」  
まさに自分が求めているサービス  
困っている人を助けたい思いが伝わった



# 10 原村ボランティアネットHP (ネーミング募集中)

太田佳子

## あらゆるサービスの情報の集約・提供の充実を

ボランティア情報だけでなく、公民館活動やスポーツ・事業者・店舗情報まで村内の人材情報がインターネット上の1か所でわかる手段がほしい。ホームページ、アプリ、LINEなど媒体は問わない。今多くある紙ベースのものは紛失してしまうのでWEB上に集約がよい。村民の主体的な活動に役立つ情報を集約化してほしい。

**原村とリンクできそうなこと**

- 村ホームページとの相互リンク
- ホームページ作成業者の紹介

**原村ボランティアネットHP**  
(ネーミング募集中) 提案者: 太田佳子・多田紀子

**★課題**

- 地元住民と移住者の交流だけでなく、移住者間の交流ひいては地元民同士の交流をもっと増やしたいという要望や必要性がある。
  - 生活支援・子育て・介護・子供の学習支援
  - 地産地消・地元産業・個人事業主
  - 自然保護や整備・地域エネルギー
  - 趣味・学習・スポーツ
  - 伝統的な祭り・伝統的な相互助け合い
- 村民が主体的に交流・活動するために、ボランティアグループの活動が一つの切り口になるのでは。
- しかし、ボランティアグループが十分に生かされていない。
  - すでに社協のHPにボランティアグループの紹介が載っているが、なかなか活用されていないようだ。

**★ボランティアネットの目的**

- インターネットのHPを活用して、村民の皆さんが、すでにあるボランティアグループ、これから新しくできるボランティアグループの存在を知ることができるようにする。
- HPを見ることで、どのような活動をしているのかを知ることができるようにする。
- たくさんの方が参加したり、サービスを利用したりすることができるようにする。

**★ボランティアネットの構想**

HPを活用してボランティアグループの存在を知ることができるようにする。

- ボランティアグループを紹介する新しいHPを作成する。
- 移住者が転入手続きをするときにHPを紹介・アピールする。
- 役場HPで、ボランティアネットを紹介し、リンクをつける。
- ボランティアグループの**分類**
  - 興味のある活動や、利用したいサービスを見つけやすくする。

**問題点など**

a. この提案ではボランティアネットの運営者もボランティアということになるが、その公共性をどのように確保するのか。  
→ 公共性を考えると、社協などで新しいサイトを運営してよいのではないかな。

b. 社協や行政との連携をとる必要がある。  
→ 原村役場HPからボランティアネットへのリンクをつける。  
→ 社協からボランティアネットへのリンクをつける。  
→ 原村公式LINEでボランティアグループの紹介やイベント情報などを発信する。

**★一番お伝えしたい事 これらに向けて**

村民の主体的な活動を目指すために、ボランティアグループだけのネットワークではなく、原村内の様々な市民グループや事業所・店舗・個人事業主・村内の人材情報のネットワークが欲しい。

- 例えば、今回のこのHPを作成するために、WEBデザインを手掛ける人材が村内にいるかを知りたい。
- 役場HPトップの「暮らし・行政」「観光ガイド」「移住・定住」に加えて、「市民活動と情報のネットワーク」を加えたい。



画像: 原村 (https://www.vill.hara.lg.jp/) リンク元素

**リンク先案1)**  
ボランティアネット (1ページ分ランディングページ) を原村のWebサイト作成業者へ依頼する

**リンク先案2)**  
原村のサイト内の記事ページに関連する窓口をまとめたものを用意する (そのまま参加誘導できるリンクあればなお)

**原村**

市民活動と情報のネットワーク

提出し案(分類)

- 自然保護や整備・自然観察会・地域エネルギー
- 趣味・学習・スポーツ
- 地産地消・地元産業・個人事業主 (はらむる物語)
- 生活支援・子育て・介護・ボランティア
- 子供の学習支援・学校応援団
- 図書館報・美しい村活動団体

社協ボランティアコーディネーターより/ 第2回宮崎県三股町社協さん「コミュニティデザインラボ」のわかりやすいホームページに感銘をうけ、「自分ではホームページもアプリも作れないし、作れる人も知らないから、まずは理想を書きます!」と本アイデアをまとめてくださいました。情報の出し方の大事さを改めて実感します。

アンケートより/ 原村で行われている活動を横断的に示せれば、地域の豊かさにつながる

# 11 【高齢者の移動課題の緩和・多様な手段確保】原山でのプラス1運動の実践 & カーシェアリング導入検討 齋田喜久子

## 住み慣れた地域で最後まで自立した生活を

発表者は個人的に「自家用車に困っている人を一緒に乗せてお買い物に行く」プラス1運動を始めた。運転手(自分)が買い物をする時に住んでいる地区の知り合いと一緒に掛け声を出し、一人を乗せて外出するようにしている。好きな場所で最後まで暮らすために、移動方法の選択肢は沢山あればいい。常に進化を続けている「日本カーシェアリング協会」の支援パッケージにも注目していきたい。

**原村とリンクできそうなこと**

- 「コミュニティ・カーシェアリング利用者、ドライバーの声動画を見る会」の会場提供

**【高齢者の移動課題の緩和・多様な手段確保】原山でのプラス1運動の実践 & カーシェアリング導入検討**

自家用車に困っている人を一緒に乗せてお買い物 → プラス1運動

運転してもいいけど自家用車だと保険関係が心配・サークル的に楽しみたい → カーシェアリング

命ある「セロリン号」 「福祉施設」 「送迎サポート」の役割をそのまますべてに活用

齋田 喜久子  
中村 真由美  
水上 美香  
関 優里香

**社協へ希望する事**

- 1) 困った事があつたら相談のつてください。
- 2) 「ドライバーさん、利用者さんの声動画を見る会 (7月ごろ)」実施にむけて会場提供などご協力ください

**役場へ希望する事**

もし、カーシェアリング やりたいが困ってきたら・・・

- 1) 市町村が利用できるアドバイザー派遣制度の申請・活用・報告にご協力ください (内閣府 地域活性化伝道師制度 (雇用の講演会等の経費を国に負担していただける制度))
- 2) 総務省 地域力創造アドバイザー制度 (年間5回以上専門家派遣を特別交付税措置で活用可能な制度)
- 2) 持続的な活動のための「原村地域づくり支援事業補助金」活用させていただきます (運転手と乗る人で作る「カーシェア会」が立ち上がったら)

**原山でのプラス1運動の実践にたどり着く**

- なぜ私が始めたか? / 2018.10/12の元氣塾「車がなくても移動できる送迎の仕組みを知る」講演会をきっかけに有志メンバー10名(ねこの手サービス協力会員7名+原山地区3名)で勉強会を始めた。→送迎サポート「ねこの足」設立へ。勉強会で終了の人も。
- 目的/好きな場所で最期まで暮す。特に原山地区は、公共交通空白地帯の山間部(鉢巻道路上の地域)。「ねこの足」利用以前にクリアしておかないと生活の質を維持できないし、介護にまっしぐら。
- 使い方/選択肢は沢山あればイイ。取り敢えず「お互い様」で、できること優先 (四季の森の知り合いのみ対象)。運転手(自分)が買い物をする時に一緒にでかけないか、声をかけて一人を乗せて外出する。
- 必要なこと/仲間あつめ、ボランティアに頼らない保険、お金/有償を基本に、ボランティアが犠牲にならない仕組みづくり
- 問題/ずっと仕事優先してきて、やと持てた自由な時間、やりたい事沢山ある。ボランティアは忙しい! ^\_^A

社協ボランティアコーディネーターより/ 「免許返納したら生活できない」との声が多数あり、住み慣れた原村を離れる方達がいきました。既存の交通手段を十分に活用しながら、選択肢を増やしていく事は大切ですね。「ボランティアが犠牲にならない仕組みづくり」という言葉にも共感です。コミュニティ・カーシェアリングは条件が整えば新しいボランティアグループとして動き出そうに思います。

**コミュニティ・カーシェアリングとは?**

- 目的/支え合う地域を作ること
- 使い方/外出支援、乗り合いでの買い物、旅行など車を柔軟に活用
- 必要なこと/使いたい仲間あつめ
- お金/会費・預り金制 (利用頻度、全体額踏まえ話し合いで決まり、精算でバック有)
- 全体でかかる金額/カーリース 1年15,000円~、(初期登録手数料・返却時手数料として別途15,000円ずつ・保険込)、ガソリン代他、導入サポートプログラム謝礼

バスタクシーと競合しない・白タク行為にならない

R6年度「カーシェアリング」興味ある! という方

おいでなして原宿でドライバーさん、利用者さんの声動画を見る会がしたい! (7月ごろ)

メンバーは4、5人位から活動が始まり、それが1年位経つと20人位の活動になっている。最終的には30人位になると活動が比較的安定してくる傾向。(最も多い地域で約70人の会員がいる地域も)

引用: 日本カーシェアリング協会 https://www.japan-csa.org/

アンケートより/

- 原山地区の大きな問題
- 地域で最後まで
- 車がなくても生活できる仕組みがほしい



# 12 障害があっても歳を取っても暮らしつつけられる村に

田中唯記子

## 村の中に学校卒業後の障がい者の居場所を

そこでは、高齢者はじめ様々な年代・性別の方が利用でき、居場所での活動内容は「クラフト、アート作品の作成、畑仕事」「昼寝やおしゃべりなど、自分のペースも大切に」「村内の仕事請負(付き添い有)」で、送迎スタッフ、施設スタッフ、ジョブコーチは仕事として携われる形がよい。

みんなが社会の一員として社会や人の役に立ちながら生きていける社会であってほしい。



**原村とリンクできそうなこと**

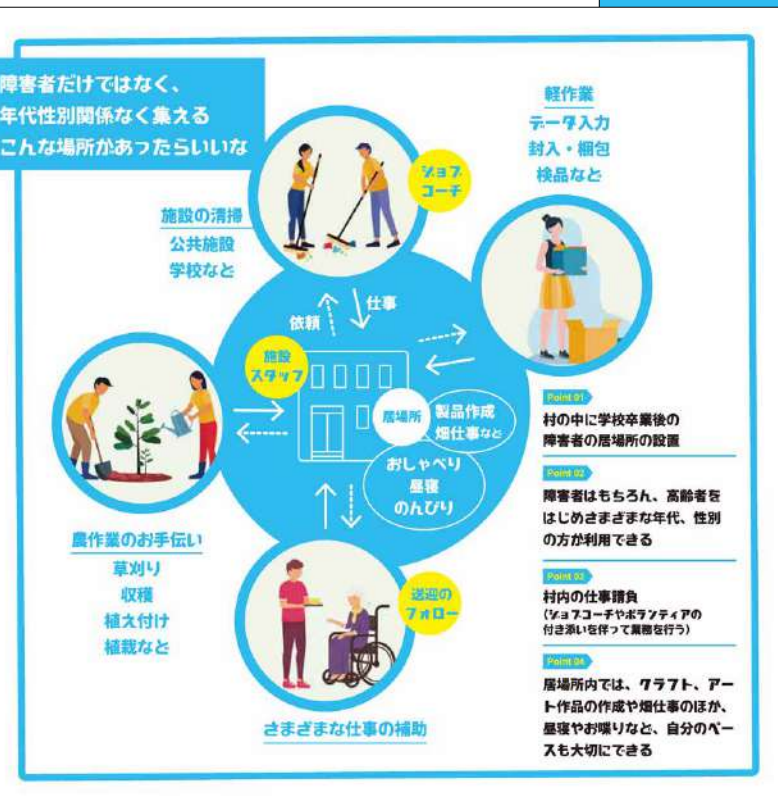
- 障がい者就労施設の新設やあり方の検討

右の表は近隣の障がい者就労施設の一覧です。ご覧の通り、原村には障がい者就労施設はありません。

近隣の施設も定員がいっぱいで、心身に障害がある人が自力で通勤できる範囲内に自分に合う職場を見つけるのは大変な状況です。

原村には、障害のあるなしはもちろんな、生まれも育ちも多様な人々が集まり、さまざまな仕事や活動をしています。そんな素敵な環境の中に、障がい者もその他の人々もいっしょに過ごせる場所があったらどんなにいいでしょう。

施設名	所在地	施設種別	定員	備考
〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇



ここに集まる人は、人よりちょっと苦手なことが多く、個性的。そんな彼らは他の人と同じペースでは働けません。フォローも必要です。

それでも、彼らが社会の一員として、社会や人の役に立ちながら生きていける社会であってほしい。

送迎スタッフ、施設スタッフ、ジョブコーチ。そうした方がお仕事として携われる。そしてやったお仕事の給料を彼らも受け取ることが、できるような仕組みが、原村の中にできたらステキだなと思います。

原日會 HINENOSUSHA  
田中唯記子  
090-5530-1418/hinenosusha@gmail.com

「社協ボランティアコーディネーターより」  
「ボランティアでなく事業にしたいんです」と胸の内を語っていただき「地域共生社会の実現に向けた手法にはボランティアだけでなく、事業にする方法も当然あります」とお伝えしました。

# 原村そうぞうカフェに寄せられた声

原村そうぞうカフェの第3回と第6回に参加させていただきました。「原村のお宝探しと課題探し」では、私も移住者の一人として外からの視点で原村の魅力をピックアップしました。みなさんと一緒に、村の魅力を再発見する良い機会になったと思います。協力隊としてのミッションが「移住促進」であるため、普段は移住者の方と接することが多いのですが、ワークショップでは地元の方からも率直な意見を伺えて、大変貴重な機会となりました。

また最終回の「アイデアプレゼンテーション」は、バラエティに富んだ斬新なアイデアばかりで、大変興味深く聞かせていただきました。みなさんに共通して感じたことは、「原村が好き!」「村をより良く、暮らしやすくしたい!」「自己実現を目指して

もっと健やかに生きるには?」というポジティブな思いをお持ちだということです。

それぞれが思い描いていることを、一か所に集まり形にしてアウトプットできる場が今まではなかったような気がするので、今回のそうぞうカフェは初企画として素晴らしい試みだと感じました。

3年間移住に関する活動を行ってきましたが、「地元の方」「移住者の方」という表現で線引きしたくないなあというのが正直なところ。小さな同じ村に暮らす「住民」としてお互いを尊重し合い、融合し、みんなで村のことを自分事と考えていければ、課題も少しずつ解決に向かってもっともっと誰もがやりたいことを実現できる素敵な村になっていくのではないかと考えています。この度はお仲間に加えていただき、誠にありがとうございました。

原村地域おこし協力隊 岡崎苗美

## アイデアプレゼンテーション 来場者アンケートより

多様な発想がありすばらしいと思いました。移住者の発表が多かったと思いますが、移住者も村づくりに参加したいの思いが強いのだと感じました。発表の中にも「住民の交流」を目指すことが多く語られたと思います。皆、共生社会を考えていると思います。

いろいろなアイデアを持つ人がいっぱいいるこの村の住民がすてきだと思いました。楽しい原村になりそうな気がしてきました。中高生の意見も聞いてみたかったです。

小さい村だからできる事もたくさんあると思います。本当に自分達の生活を良くしたい、又充実してゆきたい、そんな方々のアイデアを聞くことができ良かったです。

どうい発表があるのか楽しみにして参加いたしました。各々の地域で力のある方々が活動なさっている様子を伺って、実現できることがたくさんあるのだと思いました。原村の今後の行政施策に生かしてほしいと思いました。

実生活の中の具体的な問題に対して地に足がついた形で「そうぞう」されていて、興味深く拝聴しました。

地域のチカラはすごい。まさにそのことを感じる空間でした。

「共生社会」目指すものとしてとても切実、現実的なものと思いました。行政と共に進められたら良いと思います。

村内の個人の取り組みを身近に聴けてよかったです。

原村はいろんな可能性を秘めていると思います。

素晴らしい企画でした。

これからが楽しみです。皆はつながり、元気で住み良い原村に!

※本誌掲載のみ



# 原村そうぞうカフェを終えて参加者の声から思うこと

原村社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター 関 優里香



三股町社協の松崎さんとZOOMでミーティング

第6回でアイデアを初めて聞いた方の声

ワクワクしちゃって。あんな若い人も原村のことを考えてくれるなんて嬉しくて。杖を忘れて帰っちゃったのよ。

素敵なアイデアは人を笑顔に元気にすると思いました。

第5回・6回参加の最近ボランティアに興味を持った女性の声

今まで「なんとなくボランティアしたい」だったけど、あの人の企画を手伝いたって凄く思っ。頼まれて自分でも動いてみて発見もあったし、実際にやるのを楽しみにしているの。

第6回初参加の男性の声

後日のこと。地区の集まりで、早速あるアイデアを紹介して下さったそう。それを聞いた別の方から「とてもいいアイデア! 情報教えて」と連絡いただきました。

終わってからの広がりや種がまかれていくのを感じ、その種と一緒に育てていきたい気持ちでいっぱいです。



地域福祉は“地域づくり”に近づいていると言われています。

“地域づくり”がこれからの福祉にとっての基盤です。

今後も、皆さんと一緒に、地域づくりを考え、盛り立て、支え・支えられる存在・関係でありたいと思います。

ありがとうございました。

声を大にして言いたいのは「原村の住民のチカラって凄いんだぜ」ということ。

だからと言って、むやみに押し付けられればよいものではないということ。

住民の方の“やりたい”にちょっとしたきっかけがあれば地域共生社会に欠かせない主体の1つである「住民」のチカラはこんなに発揮されるということ。



どんなプロジェクトもリーダーだけで成り立ちません。リーダーになりうる方達がアイデアを口にして下さったことで貴重なフォロワーがボランティアに目覚める瞬間に立ち会うことができました。



おいでなして原宿は5周年を迎えました

おいでなして原宿

## おいでなして原宿の紹介

どなたでも使える集い場です。ボランティアコーディネーターがいる日も多くあります。毎月イベントカレンダーを社協ホームページからご覧いただけます。

開所時間 平日 10:00~15:00

住所 原村12670-1

駐車場 下段の砂利のエリア道路側



原村社会福祉協議会  
ボランティアコーディネーター  
関 優里香

社会福祉士として福祉教育、元気塾の企画フードドライブ、サロンや居場所支援などを担当。

# 想像したことは創造できる「原村そうぞうカフェ」

ワークショップ案内人 富岡史棋

※中立な立場でそうぞう性をひきたすファシリテーター役

第4期原村地域福祉計画「施策2-2 ボランティア活動の推進」の冒頭には「地域のために貢献したいという思いを活動につなげるため、ボランティアの活動内容についての情報提供や参加しやすい環境づくりが必要です」と記されています。

なぜ、ボランティア活動の推進が必要なのか? その根本には、地域共生社会づくりがあるのではないのでしょうか?

原村社協からは「地域に貢献したい人や移住者、若年層も参加できる、原村の住民参加型のワークショップをひらいてほしい」というリクエストがありました。

コロナでソーシャルディスタンス。それは、人と人の物理的距離だけではなく、精神的な距離まで感じてしまう状況となりました。「黙食」や「黙浴」という言葉まで使われました。ワークショップに参加した方からは「ずっと家にもっている」という声もうかがいました。

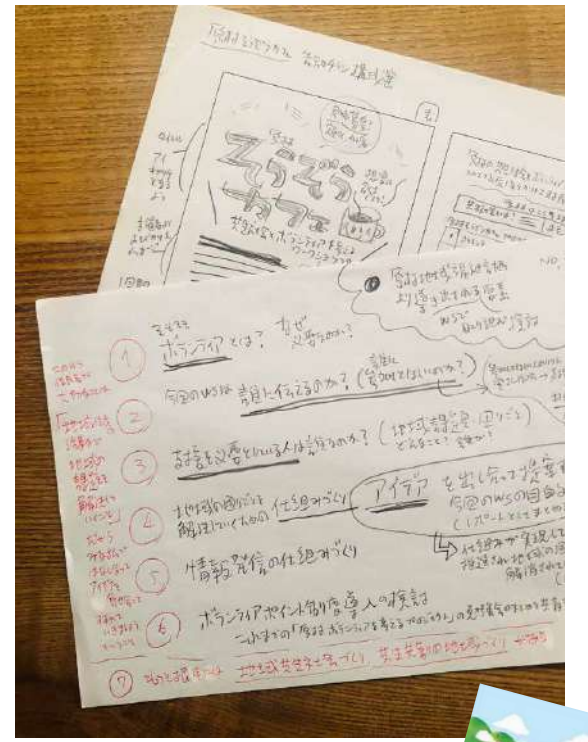
「相手のはなしをちゃんときこう(同時に自分の気持ちを伝えよう)」「その人らしさを感じよう(自由意志の尊重)」というふたつのことを大切にしてほしいとお願いしました。この原村そうぞうカフェでわたしがやりたかったことは、知らない者同士が互いを尊重して、安心した気持ちでおしゃべりできる場をつくることでした。

地域共生社会づくりのアイデアを最終回にプレゼンテーションするということが特徴です。アイデアやひらめき、ワクワクすることは、参加者の自由意志に委ねました。そうすれば、胸の内にそうぞう性が湧くスペースが生まれます。そして、自発的=楽しいのです。

回を重ねるごとに笑い声も大きくなり、関係性がかたちづくられていきました。アイデア提案の中には、参加者同士でコラボ(協働・共創)しながら、もう実際に活動が始まっているものもあります。

「どんな立場の人もそこに参加しながら楽しんで、しんどい人も、しんどくない人も、そこでまじわるような社会が共生社会かなと思っていて、しんどい人をできるだけ何かにつなげたりとか、地域の人の力はすごく大事。その地域の人が楽しみながらやることで、もっともその輪はひろがっていくんじゃないかという仮説を立てて活動している」という三股町コミュニティデザインラボの松崎さんの言葉を最後にご紹介します。楽しく、本気で取り組んでいる姿は、はげましになり、ともしびになります。

原村そうぞうカフェでご縁をいただいたみなさん、おもしろくて楽しい時間をありがとうございます。また、おしゃべりしましょうね。



上:原村そうぞうカフェの企画内容のアイデアスケッチ  
右:第4期原村地域福祉計画



原村の居心地のいいカフェで個別にやりとりしました  
ひとりひとり目の前にいる人の気持ちをきくことはおもしろいということに気づかされました



「地域共生社会の実現を目指すわたしたちの共通目標」と謳う長野県地域福祉活動計画、信州ふっころプラン。原村そうぞうカフェのプレゼンテーションをご覧いただいた長野県社協の山崎博之さんより「(信州ふっころプラン第2期策定途中の10の実践目標の中の)3番目の目標の【地域のチカラに気づいて、つなげて、広げよう】そのものを見させていただき、体感させていただき、本当にありがたい機会でした」というメッセージをいただきました。

【注目している共生社会づくりの取り組み】 ※興味関心ある方はウェブ検索してみてください

- ・特定非営利活動法人 抱樸 (北九州市) 「希望のまちプロジェクト」(ガバメントクラウドファンディング実施)
- ・一般社団法人 Arts and Creative Mind (北海道十勝市) (クラウドファンディング実施)
- 「障がいのある人もない人も、アートと葡萄酒で繋がる未来の世界を創る! THE WORLD」

【見学に訪れた場所】

- ・一般財団法人 たんぼぼの家 (奈良市) ・社会福祉法人 やまなみ会 やまなみ工房 (滋賀県甲賀市)
- ・社会福祉法人 佛子園 (石川県白山市) ・社会福祉法人 この街福祉会 この街学園 (茅野市)

【これから訪れたい場所】

- ・三股町コミュニティデザインラボ (宮城県北諾朗郡) ・社会福祉法人 太陽会 しょうぶ学園 (鹿児島市)
- ・特定非営利活動法人 工房まる (福岡市) ・社会福祉法人 アール・ド・ヴィーヴル (小田原市)



ワークショップ案内人  
富岡史棋

グラフィックデザイナー  
2010年、三鷹から茅野に移住。  
いろんな人がいっしょにいられる場所づくりにデザインで関わる。

☎ @fumikitomioka



この冊子の中には、ボランティアポイント制度をはじめ、  
自然が好きな方・子どもが好きな方のボランティア活動の場になったり、  
多世代交流の場になったり、障がい者や高齢者の社会参加の場として期待できるアイデアもあります。  
気になるアイデアをこの冊子でみつけ、興味を持ったらぜひ社協へご連絡ください。



原村社会福祉協議会は、共生社会とボランティアを考えるアイデア提案型連続ワークショップ「原村そうぞうカフェ」を令和4年7月から開催し、同じような問題を解決したい人同士でグループを作り5回の話し合いを行い、最終回の第6回に11グループよりその結果を発表していただきました。

発表いただいた11アイデアと本誌掲載の1つのアイデアは、原村の未来に対し第一歩になるものと思います。ここに暮らす人々が地域や、家族・仲間を愛し、住民の行動力で社会の変革に対応してこそ、安心して暮らせる地域が成り立つものと考えています。

原村そうぞうカフェに参加いただいた皆様ありがとうございました。原村社協は今後も「地域共生社会」の実現に向けて努力して参ります。お力添えを宜しくお願い申し上げます。

原村社会福祉協議会 会長 小林庄三郎

## 連絡先・発行

### 社会福祉法人 原村社会福祉協議会

長野県諏訪郡原村6649-3 原村地域福祉センター内

Tel: 0266-79-7228 Fax: 0266-79-7093

Mail: soumu@haramura-syakyou.or.jp

http://www.haramura-syakyou.or.jp

